

5 研修成果 (感想・今後の取り組み等)

別紙 3

健康で幸せに暮らす 4 本柱とされる、

- ① 「運動」は、本市に 2 か所ある、健康遊具広場を利用した出前講座を提案したい。
- ② 「栄養・口腔機能」の重要性を訴え、講師派遣を積極的に周知したい。
- ③ 「社会参加」は、定期的に参加しなければ、効果が期待できないことが、琴浦町の調査で証明されているので、ボランティアの善意にたよらない、質の高い、積極的・継続的な実施が求められる。
- ④ 「疾病の予防」については、検診において、タッチパネル式コンピューターを利用し、40 歳以上に検査が行える環境整備に努めたい。
また、美容所、理容所等、人が長く滞在し、人間関係の構築ができている場所に勤める方に、認知症サポーターになって頂ける施策を検討する必要があると考える。
美容所、理容所に、紙の簡易認知症チェックシート(裏面に地域包括支援センター等の相談窓口や、認知症に対する正しい知識を明示)を置かせて頂き、早期発見・予防に努めたい。

他にも、

- Ⓐ 認知症に対する偏見を取り除くため、本年 10 月に本市が開催した認知症イベントを年 1 回開催することを求めたい。
- Ⓑ 正しい理解を促すための普及・啓発を行うために、更なる認知症サポーターの養成を求めたい。
「もの忘れ相談プログラム検査」を 40 代の若い世代に体験して頂き、早い段階から健康寿命の延伸に取り組んで頂けるきっかけをつくる。
- Ⓒ 住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市として認知症の方の登録制度をつくり、市として賠償保険制度を設置したいと考える。
以上、認知症予防と共生に取り組んでいくことが必要と考える。

- ・ **空き家に関する情報**は、広報紙がお盆と、お正月に配布される月号にまとめて、帰省した子供世代が見られるよう工夫する。
- ・ 県外発送の固定資産税納入通知に、「空き家に関するチラシ」を同封する。
- ・ 家財の処分費も含めて売価とし、空き家提供者の重い腰を上げてもらう。
- ・ 空き家提供者を募るため、あらゆるイベントで空き家のチラシを配布する。

